

(1) [校長・教頭・事務長]

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和3年度一般入学者選抜では、普通科志向が顕著となり、大阪府全域で専門学科の受験者が募集定員に届かない高校が多数あった。西高校は、来年度堀江中学校校地となり母校喪失を迎える中、昨年度新設の「教育情報科」80名のみの募集にもかかわらず、86名の志願者があり、新学科に対する十分な理解をいただいた結果と受け止められる。今年度は、新高校への再編統合に向けた最後の年であり、西高校がこれまで実践してきた教育への高い評価と、継承する新学科について十分にご理解をいただき、新高校へ引き継ぎたいと考える。

昨年度末の進路状況は、きめ細かい進路指導により、就職内定率は100%を継続し、進学については国公立4名(うち1名は国立高専編入)、関関同立7名、産近甲龍15名という結果を出した。

これまで英語科・流通経済科・情報科学科による実績が、十分に評価されている現状を踏まえ、新学科である教育情報科も昨年度からスタートした。職業観・世界観・人生観が大きく変化していくSociety5.0時代を、しっかりと生き抜く力を身につけ将来の目標を実現できる生徒を育てるために、西高校の取り組みとして、生徒にコアコンピタンスとなるスキルやノウハウを習得させられるよう、教育内容の精選を行い、それを4学科の在校生に適用し、一步先の高校教育を進めたい。

そのために、高大連携のさらなる強化・発展と産学連携の本格導入によって、4学科それぞれが専門性の高い教育に努めたい。さらに西高校独自の素晴らしい教育実践を発展させ、生徒たちが西高校を選択したことに誇りを持てるよう、全教職員で責任を持って取り組んでいきたい。

中期目標

令和2年3月改訂の「大阪市教育振興基本計画」でも、2つの最重要目標は変わらない。西高校では、従来通りこの2つの目標をベースに課題解決をめざすため、次の中期目標を掲げる。

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

西高校では、いじめ・体罰に関連する問題事象は昨年度も確認されていない。これは、生徒たちの穏やかで真面目な気質と教員のきめ細かい指導の相乗効果と分析できる。一方、SNS等の悪用や、現代社会が持つ様々な危険から自らを守り、加害者にもならないように、人間としての正しい価値観やモラルを身に付けさせなければならない。そのために、授業はもとより学校行事、HR活動、保健指導、部活動指導等のすべての教育活動で対話を重視した実践をさらに強化する必要がある。

また、再編統合へと向かう状況を踏まえ、生徒たちがやる気をなくしたり、寂しい思いを抱かせないために、学校全体として退潮ムードが蔓延しないよう全力を挙げて取り組む必要がある。

いずれにしても、これまで西高校が実践してきた人間力の育成を継承、発展させ、生徒と一体感のある教育を展開することが重要である。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

再編統合のプラン構築の最終段階を迎え、新しい高校での教育目標や学科構成、カリキュラムデザイン、各種規定等、検討課題が山積する。そんな中、英語科・流通経済科・情報科学科・教育情報科という専門学科で構成される西高校では、新高校に継承すべき専門教育を見極め、更なる発展と充実を目標としなければならない。また、教育系大学も含めた大学進学が重視される新校においては、基礎学力の定着が重要となる。これらを受けて、中期目標として専門教育の充実と基礎学力指導の充実を最重要課題とする。西高校は統合までのこの1年間、その存在感を十分に示すとともに、より発展した教育の形を新高校で作りあげる役割を担い、新高校へ引き継ぐことが重要である。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

生徒指導のあらゆる場面において対話による指導を実施し、いじめの発生を防ぐとともに生徒の問題行動を起こさないように、きめ細かい指導を徹底する。本年度は、大阪市教育振興基本計画の施策1～3および施策8に基づき、具体的に次のような目標を設定する。

- ①生徒と教員の対話によりお互いの意思の疎通をさらに深めるとともに、問題行動を起こさないように事前指導の充実に努め、問題行動による特別指導の件数を出さないように努める。
- ②折に触れ、基本的な生活習慣指導を行う。
- ③学校生活はもとより、学校行事や団活動、HR活動、部活動の充実に図り、生徒の学校に対する満足度をさらに高める。
- ④すべての教員がカウンセリングマインドを持ち、人権教育はもちろんキャリア教育、健康教育等を充実させ、不登校生徒や中途退学者を出さないように努める。
- ⑤すべての校務分掌で、道徳心・社会性の育成に努め、学校協議会等からの高い評価をめざす。
- ⑥再編統合による最後の年にあたり、地域はもとより多くの市民から支持される学校をめざす。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

英語科・流通経済科・情報科学科・教育情報科の専門教育を充実させ、本市が積極的に取り組んでいる英語教育とICT教育の充実に貢献する。また、再編統合の最期の年にあたり、確かな専門力を育成するために、必要なシステムや教育内容について研究・検討を重ね、西高校としての高い教育力を示す。並行して基礎学力の定着についても取り組むが、専門教育の充実に第一目標として設定する。本年度は、大阪市教育振興基本計画の施策5、6、8に基づき、具体的に次のような目標を設定する。

- ①英語科生徒はもちろん、他科の生徒に対してもC-NETとの連携強化やICT機器の積極的導入によりコミュニケーション指導を充実させる。そのための施設・設備の充実と教材開発を行う。
- ②英語教員の研修を充実させ、本市の英語教員のリーダーとなれるような人材育成に努める。
- ③情報教育の専門知識が豊富な指導者の発掘に努める。
- ④大学教育との連携をさらに強化するため、現在実施している様々な事業を継続・発展させるとともに、新たな企画を立案し実践する。
- ⑤進学希望者への指導をさらに充実させ、大学への合格実績を伸ばす。

3.本年度の自己評価結果の総括

(2) [国際交流]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

新型コロナウイルス感染拡大の現状を踏まえ、研修旅行、交換留学、訪問団の受け入れなど、従来の国際交流活動ができず、再開のめども立っていない。可能な限り姉妹校や国際交流センターなどとの連携を図り、生徒の多文化理解を深め、国際社会で活躍できる人材を育てる活動を企画・推進するよう努めている。また、再編統合・新校に向けて、姉妹校の Parkdale 校とは提携内容の確認と改善を、Bayview 校とは本年度最後となる姉妹校関係の終結と市立高校との橋渡しをスムーズに行う必要がある。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

従来の姉妹校との交流の実現に向けて、フレキシブルな対応を整える。また、国際交流活動が日常的な取り組みになるように、効果的な交流を模索する。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 姉妹校との交流や、市・府などの国際交流事業にも参加し、オンラインなどを利用した交流を企画・実践する。
- ② 再編統合・新校に向けて、姉妹校提携内容を確認・改善し、Bayview 校との姉妹校関係は理想的な形で終結する。

3. 本年度の自己評価結果の総括

--

(3) [教務部(データシステム管理部)]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

令和4年度の新校統合、また新学習指導要領実施に向けて新学科の教育課程を編成してきたが、それを実施するための具体的な内容のさらなる検討が必要である。さらに校内における多岐にわたる事務作業の増加に対応するべく、パソコンなどの利用をより効率的に行う必要に迫られている。

校内で使用している電子データは、同一データの繰り返し入力や、データ更新が統一されないなどの問題点を含んでいる。このようなデータ構造を見直し体系化することにより、データの一元化・作業の効率化を進め、データ管理体系を構築していく。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

組織的な学校運営を行い、新学科、新教育課程の内容を熟考し、社会の変化に対応できる人間を育成する教育活動を推進する。

データシステム部統合により、入試処理・成績処理・調査書作成の各システムを改良するとともに、システム間でもデータの共用化など連動部分を強化する。また選択科目システム・時間割作成システム・名列表作成システムのデータ共通化と操作性の向上をめざす。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 授業時間数の確保を考え、年間行事を計画する。
- ② 新教育課程の実施に向けての内容を検討する。
- ③ 追認対象者を減らすとともに、その指導を徹底する。
- ④ 入試・選択科目・時間割作成・名列表作成システムのデータ一元化と修正をする。
- ⑤ 成績処理・調査書作成システムの改良をする。

3. 本年度の自己評価結果の総括

(3) [教務部(図書視聴覚部)]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

○図書室への来室者数は、年々増加傾向にあるが、今後の課題として図書室の利用を促すための動機付けをより一層工夫していくことが必要である。

中期目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】
○感受性を育成するとともに、読書習慣の定着をめざす。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ①生徒の感受性育成の一助として、全学年を対象とした視聴覚行事を実施する。
- ②大阪市立中央図書館と連携しながら、生徒の読書習慣の育成を推進する。
- ③再編統合・新高に向けて、図書室の環境整備と引継ぎ等に取り組む。

3. 本年度の自己評価結果の総括

--

(4) [生徒指導部]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

- 本校は現在、落ち着いた環境で教育活動が行われているが、この教育環境を維持し発展させるため、生徒の基本的生活習慣の向上と人権尊重の精神の育成を図る必要がある。
- 生徒会を中心とした学校行事、団活動やクラブ活動への関心をより一層高め、自立・共生の精神を育て、生徒個々の自己実現につながるよう指導する必要がある。

中期目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 基本的生活習慣の確立と人権を尊重する精神を育成し、いじめの根絶と安全で安心な学校をめざす。懲戒件数年間0を目標にする。
- 生徒会を中心に、全校生徒が学校行事やクラブ活動に積極的に参加できる環境を整え、生徒個々の自己実現の支援を行う。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 遅刻0の日の増加をめざすとともに、服装、頭髪、言動の乱れをなくす。また、挨拶が1日の始まりとなるよう挨拶の励行を行う。
- ② 全体集会や講演会で人権を尊重する大切さを訴え、他者を思いやる心、共に生きる共生の心の育成を図るとともに 警察と連携し交通規則の順守、いじめや差別を許さない意識向上をめざす。
- ③ 生徒指導部と全校生徒とのコミュニケーションをできるだけ密にとるように努め、事件が起こってからの指導ではなく、事件を起こさないように事前の指導に力を注ぐ。問題行動の実態把握と未然防止に取り組む。また、SNSの危険性を伝え、利用にあたってのモラルの向上をめざす。
- ④ 1年生の部活動加入率7割以上をめざす。また団活動、部活動を通じ学年を超えた協力関係を築き、リーダーシップや自主性、連帯感、共生の精神を養う。
- ① 生徒会執行部と各クラスの連携を深め、学校行事の運営に関わっているという自覚や責任感・充実感を持たせる。裏方で行事を支えてくれている人がいることを理解し、感謝の気持ちを持てる生徒を育てる。

3. 本年度の自己評価結果の総括

(5) [進路指導部]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

生徒の進路目標をより高め、一人ひとりに応じた指導を充実させ、進路を主体的に考えることができる指導をめざす必要がある。

就職について、事務職の指定校求人数が不足しているため、今後、会社訪問・企業交流会等への積極的な取り組みが必要である。

中期目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 生徒の進路実現をサポートし、進学実績を向上させる。
- 高大連携事業を積極的に活用する。
- 職業観の育成をはかり生徒の自己実現の可能性を広げる。
- 将来の進路に向けて、目的・目標や職業意識等、個々のキャリアを考えさせる。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 新型コロナウイルスによる混乱の中、一人ひとりの進路実現に向けて、きめ細かな進路指導・面談・補習等を実施し学力向上をサポートする。
- ② 進路説明会を実施し、進学に対する目的・目標や職業意識等を育成する。
- ③ 経済悪化による求人数減少が予想されるが、指定校企業やハローワークと連携を密にしながらか就職実績を継続させる。
- ④ 高大連携によって、生徒の学習意欲や目的意識を高め、適切な進路選択を支援する。

3. 本年度の自己評価結果の総括

--

(6) [健康教育部]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

欠席・遅刻、不登校傾向生徒が増加傾向にあり、それが常態化している。心が未成熟な生徒、指導が入りにくい生徒の存在、その背景にある家族の形態の多様化や家庭の指導力の低下が憂慮されている。

中期目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

美化・環境整備に関心を持ち、地域の防災リーダーになれるような取り組みを進める。

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 心身の健康に関する正しい知識を身につけさせる。
- ライフスキルを確立させる。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 感染症について広く知識を持ち、望ましい生活習慣や行動を身につけさせる。
- ② 行事ごとに保健委員・設備美化委員をリーダーとした啓蒙活動を行い、自主的な美化清掃活動を徹底させる。
- ③ 校内のごみの分別、軽量化に向けて取り組みを進める。
- ④ 一人一人の生徒の成長に関わっていけるように、教職員間の連携を強め、情報や対応の仕方について、協議を重ねながら共有できる体制づくりをする。

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 定期健康診断で精検を指示された生徒の事後措置として、早期受診を促し、学習活動に支障のないように指導する。
- ② 慢性疾患を持つ生徒が自己管理できるよう定期的に懇談の機会を持ち、心身の安定を図るよう指導する。
- ③ 心の健康に問題を抱える生徒には個々に応じたアプローチをし、行動化に結び付くような指導を心がける。
- ④ 生涯にわたってよりよく生きるために、また仲間や生徒の心の不調にいち早く気づくことができるように、生徒・教職員のMHL（メンタルヘルスリテラシー）教育を充実させる。

3. 本年度の自己評価結果の総括

(7)〔人権教育推進委員会〕

1.学校運営の中期目標

現状と課題

本校においては、基本的な生活習慣が確立した生徒が多く、授業や部活動、特別活動に積極的に参加する傾向がみられる。校内では特に目立ったトラブルはなく、生徒たちは概ね落ち着いた学校生活を送っている。また、外国籍の生徒もあり、異文化理解や共生がより一層求められる現状もある。

中期目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 自らの人権を守るとともに、他の人びとの人権を認め、お互いを尊重しあえる態度を育て、将来にわたり民主的社會を構成する一員として必要な思考力と行動力を身につけさせる。

2.中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 時代のニーズに即した身近な問題を取り上げ、生徒の実態に応じた人権教育を推進する。
- ② P T A人権委員をはじめ保護者や地域との連携を図り、さまざまな人権問題についての啓発をめざして、講演会等の研修会を実施する。
- ③ 教職員間での人権意識の向上をめざして、講演会等の研修会を実施する。

3.本年度の自己評価結果の総括

--

(8) [英語科]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

グローバル社会で活躍する人材の育成と、一人ひとりが希望する進路の実現をめざすべく日々取り組みを行っている。英語の運用能力を高め、資格取得支援の充実と、進路実現に向けてのさらなるきめ細やかな指導が必要である。また、大学入学共通テストへの移行や学習指導要領の改訂を考慮し、生徒たちが必要とされる学力を効果的に習得できるよう、カリキュラム、授業案、教材等を研究し、実践する必要がある。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 進学先や検定合格結果から、卒業までに基礎・基本のみならず発展段階まで学力が定着したと認められる生徒の割合を、前年度の水準より増やす。
- 豊かな語学力を身につけ、海外に日本の文化を発信するとともに、外国の文化を理解、尊重し、グローバル社会で活躍できる人材を育てる。
- 英語でのプレゼンテーションやスピーチ、エッセイライティングなど英語の運用能力を総合的に向上させ、英語表現能力を強化する。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

グローバル社会・情報社会時代に生きる、明るくたくましい人材育成する。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 効果的な授業案や指導により、英語の運用能力を身につけさせる。
- ② 生徒の希望を実現できる進路指導やガイダンスを、前年度と同じ回数行う。
- ③ 組織的な補習体制を組み、生徒の進路実現を支援するため、週1回以上の補習をする。
- ④ 日本文化を発信し、異文化を正しく理解する機会（教材、プレゼンテーション）を増やす。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 授業などで異文化理解、多文化共生、国際理解の大切さを学ばせる。
- ② 英語をより実践的に使えることをめざす教育を充実させる。
- ③ 英語を使って発信することの意義を学ばせ、エッセイライティングやプレゼンテーション能力を向上させる。

3. 本年度の自己評価結果の総括

(9) [流通経済科]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

- 全商簿記検定1級取得を目標とする。苦手意識が強い生徒には、情報処理検定1級か英語検定1級を目標とし、いずれかの検定1級取得に注力させ、個性を伸ばす。生徒の状態をみながら、他の様々な検定にも挑戦させ、無級状態にならないようにする。
- 現状に満足してしまい、今の力で入れる進路先に安易に進学・就職を決めてしまいがちである。目的意識の高揚が必要である。
- 就職、AO・推薦入試で課される面接において、部活動・検定以外にもアピールすることができるスキルの習得や校外活動への参加を促す。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 1年生から、流通経済科の進路先、必要な学習・検定を生徒自身が理解し、注力できるようにする。特にアドミッションポリシーに掲げる「世界のあらゆるビジネスシーン」で活躍する力の基礎として、簿記・英語情報処理検定の合格率をあげる。また、英語の資格が重視されている点も認知させる。それらの資格をいかした進学・就職率をあげていく。
- ② 学年と連携し各学年に応じた、科による進路ガイダンス（外部連携授業、就職講話、適性検査など）を継続して行う。4年制大学の専門学科推薦や学科の特色を生かしたAO入試での進学に挑戦するように指導する。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① アクティブラーニングの機会を増やし、授業を通じて課題を見つけさせるように指導する。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 流通経済科のロードマップに基づいた指導の徹底。簿記・情報処理検定合格率を向上させ、英語科（全商英検・STEP英検）との連携を進める。
- ② 流通経済科の授業において進路実現に必要なスキルや検定を紹介できるようにする。学科の特色を生かしたAO入試や専門学科推薦での4大受験数の増加を目標とする。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ①-1. 校外活動への参加生徒、提供する機会を増やす。（見学会・講演会・実習・コンテスト・発表・インターンシップ・高大連携企画 参加者のべ20名以上）
- ①-2. 「課題研究」や「広告と販売促進」などの科目を通して、自主的に課題を見つけ、イベントや販売実習などの企画・実施・総括までを行う。多種多様なアクティブラーニングを取り入れ、地域や企業などの協力を得て活動し、科の取り組みについて地域での認知度を高める。

3. 本年度の自己評価結果の総括

(10) [情報科学科]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

近年、授業をきっかけに自ら学び専門力を高めるカリキュラム構築を進めてきた。その成果もあり、情報分野に興味・関心を示す生徒が増え、課題研究等では生徒が自ら探究し作品制作をおこなっている。Society5.0 の時代をリードする人材を育成するため、授業内容に更なる最先端技術の内容を取り入れ、情報科学科最後の1年に相応しい教育を展開していく。

情報科学科の進学実績は、AO入試や専門学科推薦入試など推薦入試が大半を占めている。多様入試に対応し、大学進学率を維持するために生徒の専門力を高め、課外活動への参加を促す。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

情報技術が日々進化する中で、AI・IoT・データサイエンスなど最先端技術の内容も取り入れた授業を実施する。また、専門力の向上と進路実現のために、実習内容の充実で興味・関心を深め、大学に提出できる作品制作を促し、情報関連の資格取得者を増加させる。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

情報化社会におけるモラル教育を徹底し、ネットワークや機器の健全な活用能力を育成する。アクティブラーニングなど探究的な学習における情報教育が担う役割を理解させ活用できるようにする。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① Arduino や RaspberryPi などのマイコンボードの導入や、python 言語を用いた機械学習など最先端技術の内容を新しく授業に取り入れる。
- ② IoT の分野に力を入れるため、3D プリンタに加え新たに導入したレーザー加工機を使用し、モノづくりの部分について強化する。また、作品提出型の入試に対応できる作品の制作を促す。
- ③ 情報分野の国家試験や情報技術検定の受験を促し、合格者数を増加させる。
- ④ 卒業後の進路について、将来の職業やそれにつながる進学先などの具体的なイメージを持たせ、生徒個々の進路希望に応じた個別指導の充実を図る。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 授業や実習を通じて、ネットワーク時代の情報管理と取扱いのモラルについて意識させる。
- ② ネットワーク通信の仕組みを理解することにより、安全かつ合法的な利用方法を習得させ、自己理解、他者理解を通じて道徳心の育成を図る。

3. 本年度の自己評価結果の総括

(11) [教育情報科]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

昨年新設した教育情報科では、西高校の良き伝統を凝縮し、情報分野と英語分野の学びを中心にコミュニケーション能力の高い人材の育成を目指す。西高校最後の募集にもかかわらず、86名に志願していただけたのは、教育情報科の教育内容を十分に理解していただけたからだと考えている。アドミッションポリシーに掲げた教育を実現し、生徒たちの求める教育の機会を提供できるよう、試行錯誤を重ね、質の高い授業を構築していく必要がある。

課題としては、2つの分野を学ぶため、それぞれの授業時間数が減少することがあげられる。そのため、両分野で高い専門力が身に付くように、授業内容を精査する必要がある。また、授業外での自学自習が進むように教育支援をおこなっていく必要もある。授業では、特にコミュニケーション能力を高め、社会のリーダーとしての資質を育てるために、1年次の教育探究が大切になる。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○ 映像や3DCG、アプリケーションの制作からデータサイエンスまでを経験し、高い情報活用能力を身に付けることで、将来情報を積極的に活用し社会で主体的に活躍できる人材の育成を目指す。また、高い情報活用能力を身に付け、情報分野の技術者を目指す生徒には、AIやIoTなど最先端技術にも触れさせ開発者としての学びのきっかけを提供する。

○ 英語での日常会話、プレゼンテーション、スピーチ、エッセイライティングなどを通して英語の運用能力を向上させ、日常生活において活用できる英語表現能力を身につける。海外に日本の文化を発信するとともに、世界の様々な国や地域の文化に関する理解を深め、グローバル社会で活躍できる人材を育成する。英語検定やGTEC、オンラインによるアセスメントや学習ツールを活用し、主体的で自律的な学習を支援する。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○ 高いコミュニケーション能力で社会のリーダーとして活躍できる人材を育てるため、教育探究を中心にさまざまな授業でアクティブラーニングや探究学習をおこなう。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

① 1年生の情報分野では、パソコンを無理なく扱える情報リテラシーを習得する。また、ビジュアルプログラミングから始め、プログラミングやハードウェアの基礎的な知識を習得する。

② 2年生の情報分野では、既存のアプリケーションやコンテンツを、生み出す側としての知識を深め、主体的に物事を考える力を付ける。

③ 主体的、積極的に英語を使ってコミュニケーションをとろうとする姿勢を育成する。日常的な話題や社会的な話題について、話し手や書き手の意図を的確に理解したり、情報や考えを適切に表現できる基礎的な力を身につける。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

① 教育探究の授業において生徒間でコミュニケーションをとる機会を増やし、様々な分野にわたる興味関心を深め、リーダーシップの醸成を目指す。

3.本年度の自己評価結果の総括

--

(12)〔国語科〕

1.学校運営の中期目標

現状と課題

多くの生徒が基本的な国語力を有してはいるが、国語を的確に理解し、適切かつ効果的に表現する能力を向上させる必要がある。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】
基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育てる。

2.中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 漢字や現代用語、古文単語などの語彙の学習により、基礎的な力の向上をめざす。
- ② 読解力と共に論理的思考力・表現力を身につけ、ものの見方・考え方を深める。
- ③ さまざまな作品・文章に触れることで、想像力を養い言語感覚を磨いていく。
- ④ 生徒の進路希望状況に応じて、個別指導や補習を実施する。

3.本年度の自己評価結果の総括

--

(13)〔地歴公民科〕

1.学校運営の中期目標

現状と課題

地歴公民科では、我が国の社会の一員として生きるための必要最低限の知識の習得に加えて、これからの社会において主体的に行動し、より良い社会を作り上げる人間を育てる必要がある。また、本校における進路の多様性を踏まえて、大学の受験に対応したカリキュラムを構成することが求められている。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】
○ 基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育てる。

2.中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 各必修科目において、高校での地歴公民学習への導入と動機づけを行う。
- ② 1年の「現代社会」の授業において、社会の出来事への関心を高め、現代社会の基本的な問題についての理解を深めさせる。
- ③ 2年の「世界史A」の授業において、世界の近現代の歴史を我が国の歴史との関連を踏まえながら、現代社会の諸問題の原因等に着目して考察させる。

- ④ 3年の「日本史A」の授業において、我が国の近現代の歴史を世界の歴史と関連づけながら、現代社会の諸問題に着目して考察させる。
演習等の選択科目の授業において、「地歴公民科」を大学入試の受験科目とする3年生を対象として、放課後や夏季休業中を利用して、補習を実施する。

3.本年度の自己評価結果の総括

(14) [数学科]

1.学校運営の中期目標

現状と課題

本校の生徒には数学に苦手意識を持っている生徒や、数学嫌いの生徒が多く見受けられる。彼らの苦手意識を少しでも和らげ、数学的(科学的)思考法を身につけさせる。

中期目標

- 【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】
- 新学習指導要領に向けて、表現力をつけられるような取り組みをする。
 - 生徒の理解度を把握し、教材・授業内容を精選する。
 - 生徒が興味を持って学習に取り組めるよう、話題や教材を工夫する。
 - 家庭学習の習慣をつけさせ、家庭学習時間を増やす取り組みをする。
 - 個別またはグループ別に補習を行い、数学の単位不修得の生徒数を最小にする。
 - 受験(共通テストを含む)などにおいて、数学を必要とする生徒に対して補習を行う。

2.中期目標の達成に向けた年度目標

- 【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】
- ① 机間指導や小テスト等で生徒の理解度を把握し、授業内容に反映する。
 - ② 学習の動機づけとなる話題や教材を生徒に提示する。
 - ③ 復習を習慣づけるため、できるだけ頻繁に課題を与える。また問題集を有効に利用し、各定期考査後または長期休業後に解いたものを提出させ、自主学習の習慣をつけさせる。
 - ④ 理解度や進路希望等を考慮し、放課後や長期休業中に補習等を行う。
 - ⑤ 看護・医療系志望や高専志望、専門学科推薦での受験をする生徒に対して、年間を通じて目的を達成する時期まで補習を行う。

3.本年度の自己評価結果の総括

(15) [理科]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

- 入学以前の理科の知識に大きな差があり、理数に苦手意識をもつ、基礎知識の乏しい生徒が少なくない。よって、科学的な時事問題にも興味を持ちにくいのが現状である。
- 4科とも専門学科であるため、理科の単位数が普通科高校より少なくなり、あらゆる進学先に対応しているとは言い難い。

中期目標

- 【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】
- 効率的な学習を設定するために、基礎学力の定着と発展を図る。
 - グローバルな視点から、科学的な問題にも関心をつなげる授業を展開する。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 小テスト・宿題を実施し、基礎事項の理解・定着を図る。
- ② 実験・観察などで、安全に対する意識徹底教育と共に、基礎事項の理解を深める。
- ③ 放課後・昼休み・長期休業中を利用した補習を行い、進学希望者に対しては大学入試レベルの実力を、理解が不十分生徒には基礎学力をつけさせる。
- ④ 視聴覚教材を活用し、環境問題、感染症、エネルギー問題等の時事問題にも、発展的学習として取り組む。

3. 本年度の自己評価結果の総括

(16) [保健体育科]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

多くの生徒が健康で充実した学校生活を送っているが、運動・健康に対する知識が不足していることで、身体能力向上への意欲に欠ける。

中期目標

- 【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】
- 保健や体育理論の知識を身につけることで、日常生活に応用できるようにする。
 - 知識・技能を身につけることで、生涯を通じて身体の健康を保つ力を育てる。
 - 生涯を通じて健康的な生活を送るための体力を向上させる。
- 【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】
- 集団行動・各種競技を通じて、規範意識と協調性を養う。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

- 【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】
- ① 自らの健康を維持するために保健内容を理解し、基本的な生活習慣を身につけさせる。
 - ② 体育理論の理解をとおして、体力の向上を図る。
 - ③ 正しいストレッチの方法を理解し、怪我の防止に努めさせる。
- 【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】
- ① 実技の授業をとおして、集団と個人の特性を理解し、規範意識や協調性を向上させる。
 - ② 用具の点検や授業の準備を協力して行うことで、社会性や協調性を育てる。

3. 本年度の自己評価結果の総括

(17) [家庭科]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

生活する力を身につけるために、基礎的な知識のほか、生徒が主体的に実践することが必要である。

中期目標

- 【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】
- 各分野において、基礎的な知識・技能を習得し、それらを実生活と照らし合わせながら、学習への理解を深める。
 - 実践的・体験的な学習を通して、自ら考え、判断し、表現する力を育てる。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

- 【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】
- ① 生徒が関心を持って取り組めるような題材を取り上げ、家庭生活に応用できる力を身に付けさせる
 - ② 実験・実習は、生徒が主体的に取り組むことができるよう内容を工夫する。
 - ③ 家庭生活中で生かす実践力の重要性を理解させる。

3. 本年度の自己評価結果の総括

(18) [芸術科]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

書道

○中学校ではほとんど授業がないのが現状であり、「お習字」段階から芸術にまで高めなければならない。そこで、生徒の意識を高め、技術指導をする必要性がある。

美術

○授業数が少なくなり、道具の使い方や自分を表現する仕方が定着せず苦手意識を持つ生徒が増えている。興味関心意欲を高めるためには、その苦手意識を取り除くための指導が必要である。

音楽

○漠然と授業に参加するという現状から、音楽を楽しむという姿勢を持ち意欲的に合唱合奏に参加し、音楽的技術を向上するための指導が必要である。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

書道

- 書道に意欲的・主体的に関われる生徒を増やす。
- 完成を高め、漢字・仮名・感じかな交じりの書の学習に個性的な思考・判断ができる生徒を増やす。

美術

- 道具・素材を生かし創造的な表現をするために必要な技術を身につけた生徒を増やす。
- 美術に意欲的・主体的に関われる生徒を増やす。

音楽

- 音楽に主体的・意欲的に取り組める生徒を増やす。
- 音楽を通して自らの根底に流れている精神を発見し、自らを見つめなす機会を与える。
- 音楽を通して内面的な成長を遂げられるようにする。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

書道

- ① 書道に意欲的・主体的に関われる生徒を増やす。
- ② 完成度を高め、漢字、仮名、漢字仮名交じりの書の学習に個性的な思考・判断ができる生徒を増やす。

美術

- ① 道具・素材を生かし創造的な表現をするために必要な技術を身につけた生徒を増やす。
- ② 美術に意欲的・主体的に関われる生徒を増やす。

音楽

- ① 音楽に関心を持ち、どのようなジャンルでも意欲的に取り組める生徒を増やす。
- ③ 音楽の基礎を身につけて、読譜力、ソルフェージュ力を増やす。
- ④ 合唱作品に取り組み、自然に協調性を身につける。

3. 本年度の自己評価結果の総括

(19) [1 学年担任団]

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

●AIやIoT、インターネットなど、情報技術のめざましい進化や、訪日外国人の増加、未曾有の感染症拡大による社会の変化などから、学校、職業、自分自身の生き方などについての考え方がより一層多様化してきている。

⇒ 多様性を受け入れながらも、集団とのコミュニケーションの必要性を理解し、自分の考えを持ち、主体的に進路選択ができる生徒を育てることが必要である。

●昨今の過度な教育サービスを受け、自主的な挑戦、継続をしない生徒の増加が考えられる。

⇒ 自己責任感、1歩踏み出す力、大切なときに踏ん張ることができる力を身につけさせる必要がある。提出物、持ち物、スケジュールを自己管理できるよう指導する必要がある。

中期目標【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○ 情報・英語という2分野において専門性を備え、自分の強みを理解し、さらに発展させていこうという意識を育てる。

○ 挨拶、言葉遣い、礼儀を意識して、自主的に行動できる生徒を育てる。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○ 学校が生徒たち一人一人を尊重し、それぞれの個性を伸ばすことを目指す。また、生徒たちもお互いを尊重し、多様性を認め合いながら、それぞれが自律した個人となることを目指す。

○ 保護者や関係部署との協力体制を築き、学校を生徒が安心して成長していける場所にする。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

① 情報と英語の両分野における基礎知識を定着させて、2分野において次年度以降の発展的な学習につながる学力をつけさせる。

② 生徒の適性、興味関心を見極め、適切な情報提供を行い、積極的な課外活動への参加を促す。

③ 進路決定の際に、自らの専門性をより効果的に生かすために、基礎学力を高めるよう促す。

④ 挨拶、言葉遣い、礼儀の大切さを十分理解させる。

⑤ スケジュール手帳を用意し、提出物、持ち物、スケジュールを自己管理できるように指導する。

⑥ 朝学習を実施し、基礎学力を育成するとともに、早朝から勉強する習慣を形成する。また、時間的余裕をもって登校させ、遅刻の予防に努める。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

① 学年団3人で教育相談体制を充実させ、常に生徒80人に3人のうちの誰かが目を届かせておき、適切なタイミングで適切な声掛けができる状態を作っておく。

② 学校行事やホームルーム活動、教育探究の授業を通して、自己理解、他者理解を深め、自発的に集団を意識した行動ができる力を養う。

③ 保護者や関係部署との連携を密にするため、機会を作り、生徒の変化に迅速に対応できる体制を整える。

3. 本年度の自己評価結果の総括

--

(20)〔2学年担任団〕

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

●価値観が多様化する社会からの影響を受けてきた2年生は、特に情報に深い興味関心を持っている多数の生徒と、そのほか他分野に興味を持つ生徒が共存しており、多様な個性・志向の集団となっている。その中で、互いに他者を認めあい、自分たちの個性・能力を伸ばしている生徒もいるが、まだまだその間には溝が残っている。そのことは2クラスしかないクラス間での生徒が抱える比較意識にもつながっている。

- ⇒ 適性や、興味関心を見極めて行う、適切な教育の提供。
- ⇒ 本格的に始まる専門科目の強みを生かし、どう新たな進路実現へと繋げるか。
- ⇒ 多様性を受け入れながらも、集団とのコミュニケーションの必要性を理解し、自分の考えを持ち、主体的に進路選択をはじめとする様々な行動ができる生徒を育てること。
- ⇒ 目標に対して、他との比較ではなく、自分の中で高めていくという意識の醸成。
- ⇒ 来年度の3校合併に向けて、学校を超えた新たな人間関係の構築。

●昨年度、クラス減とコロナ禍によって縮小した学校行事の中で、クラスや団などの集団へ貢献するという意識が生まれにくかった。しかし、個々で見ると、委員活動をはじめ様々な行事活動に積極的に参加しようという意識は感じられる。

- ⇒ 個人の活動意欲を尊重しながら、先輩後輩の両方がいる中での団活動を通じて、社会や集団へ貢献する意識を醸成する。

●昨今の過度な教育サービスを受けてきたことから、自主的な挑戦、継続をしない生徒、ストレス耐性の低い生徒の増加がみられる。

- ⇒ 自己責任感、1歩踏み出す力、大切なときに踏ん張ることができる力を身につけさせる。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 情報・英語という2分野において専門性を備え、自分の強みを理解し、さらに発展させていこうという意識を育てる。
- 挨拶、言葉遣い、ルール、礼儀を意識して、自主的に行動できる生徒を育てる。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 学校が生徒たち一人一人を尊重し、それぞれの個性を伸ばすことを目指す。また、生徒たちもお互いを尊重し、多様性を認め合いながら、それぞれが自律した個人となることを目指す。
- 保護者や関係部署との協力体制、そして生徒たちとの信頼関係を構築し、学校を生徒が安心して成長していける場所にする。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 情報と英語の両分野における専門知識を積極的に学び、得意分野を強化しながらも、もう一方の学びも深めて、両分野を活用した進路を主体的に選択していけるようにさせる。
- ② 生徒の適性、興味関心を見極め、適切な情報提供を行い、積極的な課外活動への参加を促す。
- ③ 進路決定の際に、自らの専門性をより効果的に生かすために、基礎学力を高めるよう促す。
- ④ 挨拶、言葉遣い、ルール、礼儀の大切さを十分理解させる。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 学年団と学科長の4人で教育相談体制を充実させ、常に生徒76人に4人のうちの誰かが目を届かせておき、適切なタイミングで適切な声掛けができる状態を作っておく。
- ② 学校行事やホームルーム活動、委員活動を通して、自己理解、他者理解を深め、自発的に集団を意識した行動ができる力を養う。
- ③ 保護者や関係部署との連携を密にするため、機会を作り、生徒の変化に迅速に対応できる体制を整える。

3. 本年度の自己評価結果の総括

(21)〔3学年担任団〕

1.学校運営の中期目標

現状と課題

これまでに培った基礎的な知識・技能を前提とし、より高度な知識・技能を身につけさせるとともに、専門学科としての特徴ある能力をさらに高め、自己実現ができるよう支援する。

中期目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○これまでに培った基礎的な知識・技能を前提とし、より高度な知識・技能を身につけ、専門学科としての特徴ある能力をさらに高め、自己実現ができるよう支援する。また、自ら考えて判断し、行動・表現できる力を育てる。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○豊かな人間性を育み、社会を構成する一員であるということを自覚させ、社会に役立つ能力と主体性を持つ人格の形成を目指す。

2.中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 朝学習を継続するとともにその内容も精査し、基礎学力の定着および専門的で高度な学力の向上をめざす。また、自己実現、希望進路実現のための家庭学習の必要性を認識させ、自ら進んで能動的に、毎日最低2時間程度は家庭学習をおこなう習慣を身につけさせる。
- ② 生徒一人ひとりの進路の目的を把握し、保護者・進路指導部と十分な連携をとりながら、希望進路実現のための的確な支援を行えるよう配慮する。

【視点：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 自主的で良好な基本的な生活習慣の確立をめざす。
- ② ホームルームや学校行事等の日常生活を通じてルールやマナーを守り、社会性を身につけた人格を育成するよう指導していく。
- ③ 様々な活動を通して、最高学年としてふさわしい集団行動での自主性やリーダーシップを身につけさせる。
- ④ 保護者や関連各部署及び地域社会との連携を密にし、問題行動を未然に防ぐとともに、問題発生時の迅速な対応と円滑な解決に努める。

3.本年度の自己評価結果の総括

--